

1 学校教育目標

人権尊重の精神を基調とし、広い視野と深い知識、思いやりの心と規範意識をもった心身ともに健康な中学生

『生徒行動目標』 ○自ら学ぶ ○思いやる ○鍛える

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	今年度生徒に発信するメッセージは『ひとりひとりが誰かを支える十二中生！』とした。「自己効力感」の涵養は引き続き実践していく。そのことで、生徒の日々の行動が学びから得られた自信に基づくものとなってほしい。そこに加えて、今年度は生徒行動目標の「思いやり」に意識を置いて、生徒ひとりひとりが無意識に誰かを支える行動があふれる学校としたい。
○児童・生徒像	さりげない思いやりを、日々の何気ない行動として実践できる生徒 <「生徒行動指針」に基づいた具体的な生徒像> ○自分の力を学級や学年・家族や地域のために進んで役立てようとする生徒 ○習得した知識を実生活に活かすような行動を自ら行い、意欲的に経験を積み上げていく生徒 ○病気に負けない、心身ともに健やかな体（体力）を身に付けた生徒
○教師像	○「さりげない思いやり」を生徒に示すことのできる教師 ○教育公務員としての使命と責任を自覚し、生徒・保護者・地域の信託に応える教師 ○組織として迅速に動くことのできる教師 ○自らの生き方をもって生徒を導くことのできる教師 ○常に危機意識をもって、生徒の安全を構築できる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 学校の現状

- 1) 「今の学級をより良くしたい」、「学級のみならずお互いに協力して助け合っていた」の設問に対する肯定的回答が、いずれも9割以上で自己有用感の涵養が図れている。
- 2) 特別な支援を必要とする生徒への対応が組織的に行われている。
- 3) 「授業が楽しい」、「授業がわかる」と思っている生徒が多いにもかかわらず、学力の定着が図れていない。
- 4) 自分自身に自信をもてないでいる。
- 5) 「思いやりのある行動」が日常、さりげなく行えるまでに定着していない。

2 前年度の成果

- 1) 「スマイルルーム」と「キャッチアップルーム」を組織的に運用し、個に応じた指導を推進できた。
- 2) 「サタデースクール」を初めて夏季休業中にも設定し、長期休業中の学びの継続を図れた。

3 前年度の課題

- 1) 区学力調査と到達度確認テストの結果、基礎学力の定着が図れていなかった。
- 2) 個別の学習支援に必要な人材の確保が十分進まなかった。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	○	○	○
2	『キャリア教育』の視点に立った教育活動の推進	◎	◎	◎	◎	◎
3	不登校・不適応対応	◎	◎	◎	◎	◎
4	生活指導の充実	◎	◎	◎	◎	◎

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題				達成度 ◎○△●	
基礎学力の確かな定着と向上		令和6年度の目標正答率 3科平均57%	令和6年度の正答率 3科平均 57.8%	2, 3年の英語、数学の学力向上を図る				●	
B 目標実現に向けた取組み									
新・ 継	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	基礎学力の確かな定着	全学年 国語 数学 英語	通年	【取組内容】 ・4月の区学力調査で正答率の低い単元を授業内でしっかりと学び直す。その際積極的にAIドリルを活用する。 ・放課後補習（JUT）の年間指導計画を立て、意図的計画的に補習を行う。 【ねらい】 ・入試に耐えうる基礎基本の定着	・4月に実施する区学力調査結果 ・2月に実施する到達度確認テストの結果	・4月の正答率目標 国語 72.0% 数学 45.0% 英語 55.0% ・1月に実施する到達度確認テストで全教科5ポイントup	・4月正答率 国語 65.3% 数学 50.7% 英語 57.6% ・放課後補習（JUT）の実施 73.3% 1年 35回 2年 40回 3年 28回 ・1月プレテスト 国語 62.6% 数学 37.7% 英語 48.1%	学力重点支援校となり、11月より朝読書を朝学習（5教科）各種コンテストの取組へ移行して実施。 1月プレテストの結果より、2～3月は4月区学力調査に向け、AIドリルを活用した英数の朝学習を実施。	△

2 継続	授業改善	全教科	通年	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業展開を全教科等で統一し、導入5分、展開35分、まとめ10分とし、単元を貫く学習目標を立て、そこから各授業の学習目標を定め、足立スタンダードの基づく授業を実践する。管理職による授業観察を一人1回以上実施する。 <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1時間1時間の授業で生徒が身に付けるべきことを明確にすることで、学習内容の確実な定着を図る 	<p>区学力調査の「意識調査」とWebQUの「学校生活意欲尺度」の設問No.7</p> <p>研究授業の実施回数</p>	<p>『授業が楽しい』の設問に対する肯定的回答が90%以上</p> <p>『授業がわかる』の設問に対する肯定的回答が80%以上</p> <p>全教員が一人1回以上足立スタンダードに沿った研究授業を実施する。</p>	<p>『授業が楽しい』の設問に88.7%</p> <p>『授業に集中し、授業内容がわかる』の設問に77%</p> <p>『教え合い、学び合いを積極的にしている』83%</p> <p>研究授業 13回 大仙還元授業 2回 道徳研究授業 1回 小中連携授業 6回 成果発表授業 5回</p>	<p>全教員が一人1回以上足立スタンダードに沿った研究授業、年3回の授業観察を実施することができた。研究授業では管理職による授業観察を行い、指導・助言できた。全教員のICT活用率は上がったが、効果的な活用が課題である。大仙市派遣教員還元授業、道徳教師道場研究授業の実施による授業改善を図った。</p>	○
3 継続	学習コンテスト	国語 数学 英語	各教科 年1回	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国数英3教科で基本的な知識を問う問題に取り組ませる。 各コンテスト前に取り組む週間を設け、AIドリルを積極的に活用する。 <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習意欲の喚起 	<p>3教科の学習コンテスト</p>	<p>各教科の合格率</p> <p>国語 95% 数学 80% 英語 85%</p>	<p>各教科合格率</p> <p>国語 1年 93% 2年 95% 3年 93%</p> <p>数学 1年 74% 2年 74.6% 3年 88.2%</p> <p>英語 1年 81.3% 2年 77.2% 3年 80.8%</p> <p>理科 1年 84% 2年 89.5%</p> <p>社会 1年 49.4% 2年 75.6%</p>	<p>各教科2週間の取組とプレテストにより補充も実施しながら合格率を上げた。クリア賞を出すことで自分の目標値を定めることができた。後期に理社コンテストも実施した。国数英コンテストの難易度の検討が必要である。</p>	○

4 継続	サタデー スクール	全教科	通年	【取組内容】 ・土曜授業のない土曜日に開かれた学校作り協議会主催で自学自習の学習の場を設定する。 【ねらい】 ・家庭では気持ちが学習に向かない生徒の学習意欲を喚起するとともに、学習習慣を身に付けさせる。	サタデースクール登録者数と出席状況	登録生徒数 35名以上 年間延べ参加人数500人以上	登録生徒36名 年間28回開催 延べ参加人数672人	登録した生徒はほとんど休まずに参加できたが、担任との情報共有を密にしたい。3年生の受験勉強や1、2年生の定期考査前の勉強、宿題など大学生ボランティアに聞きながら学習習慣を身につけることができた。	○
---------	--------------	-----	----	--	-------------------	----------------------------------	----------------------------------	---	---

重点的な取組事項－2		キャリア教育の推進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己効力感の涵養を図り、自信をもって生活できる生徒の育成		区学力調査の意識調査と WebQU の設問No.8、No.16、No.21～23 で肯定的な回答を示した割合	区意識調査 平均78.1%	肯定的な回答が多く70%を超えた。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自己効力感の涵養	WebQUの学級満足度尺度と学校生活意欲尺度の設問No.8、16、21、22、23の肯定的な回答がいずれも70%以上	<ul style="list-style-type: none"> 各教科も含めた全教育活動の年間指導計画を「キャリア教育」の視点から再編する。 年間指導計画は各学年の廊下に掲示し、生徒に対して可視化する。 十二中の生徒が身に付けるべきキャリア目標を各教室に掲示し、生徒に意識化を図る。 	No.8. 自分の学習方法がある 79.9% No.16. クラスに貢献している 78.5% No.21～23. 友人やクラスの中で頼りにされている 75.9% 年度末生徒アンケートでスローガン「ひとりひとりが誰かを支える十二中生」の回答は74.5%	WebQUの学級満足度尺度と学校生活意欲尺度の設問の結果や年度末生徒アンケートより肯定的な回答が得られた。年間計画、スローガン、キャリア教育目標の可視化による意識向上ができた。来年度は80%以上を目指す。	○

自己有用感の涵養	区学力調査の意識調査の『今の学級をより良い学級にしたいと思う』と『学級の間は互いに協力し助け合っていた』の設問に対する肯定的回答がいずれも94%以上。	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の学びを受け継ぎ、中学生としての発達段階に応じた係活動に意図的に取り組ませ、集団における自己の役割を自覚させる。 ・学級活動を中心に生徒相互の良さを認める活動を充実させる。 ・SWPBSを導入し、生徒を適切に褒め、有用感を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区学力調査の意識調査より『今の学級をより良い学級にしたいと思う』 95.3% 『学級の間は互いに協力し助け合っていた』 90.6% ・SWPBSのポジティブ行動マトリクスについて生徒アンケートより「きまりを守ろう」 71.6% 「自分も友達も大切にしよう」 72.5% 「自ら行動しよう」 51.5% 	ポジティブ行動マトリクスを廊下等に掲示し、生徒会や各委員会の活動に取り入れたことで、生徒が学校をよりよくするための活動計画と実践を主体的に考えることができた。「自ら行動しよう」を具現化し、自己有用感を高める活動を実行させる。	○
ないりたい自分を見つける	区学力調査の意識調査の『将来の夢がある』の設問に対する肯定的回答が70%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・全教育活動において、キャリア発達を促す教育の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・『将来の夢がある』の設問に 93% ・夢デザインシートの活用 学校行事や年度終了時の生徒の振り返りと保護者・教師のコメントを記入 	夢デザインシートの活用、SDGsの視点を取り入れた職場体験の充実を図っていく。	○

重点的な取組事項－3		不登校・不適応対応			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
不登校出現率の減少	不登校出現率3%以下	不登校出現率8%	徐々に増えてきた。来年度SSR開設により減少させる。	●	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
不登校・不適応生徒を受け入れる学級の雰囲気づくり	WebQUにおける学級満足度50%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動、道徳科の指導を通して学級の中に生徒の居場所を確保するとともに、各学級、学年で生徒の活躍の場を設定し、相互に認め合える雰囲気を醸成する。 	WebQUにおける学級満足度 1年 57.7% 2年 38.9% 3年 62.3%	学年によって満足度が異なる。特に2学年は最上級学年になるため学年での成功体験を増やし、自己肯定感を高めていく。	△

<p>学習に困難さを抱える生徒の支援</p>	<p>WebQUにおける『学習意欲』に関する設問の肯定的回答が63%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャッチアップルーム」での個別支援を通して、学習に課題のある生徒の学習意欲を喚起する。 ・学級活動を通して、生徒が互いに学び合う関係を構築し、どの生徒も意欲的に学習に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・WebQUにおける『学習意欲』に関する設問 1年 82.3% 2年 75% 3年 81.6% ・生徒アンケート「授業内容が分かる」 77% ・放課後補習教室JUT（ジャンプアップタイム）による底上げを図った。 	<p>生徒アンケートより</p> <p>「授業でペア・グループ活動に積極的に参加している」82.1%</p> <p>「自分の意見や相手に分かりやすく伝えている」 76.9% 学習意欲を学力向上につなげることが課題</p>	<p>○</p>
<p>組織的な対応</p>	<p>特別支援教育推進委員会 年30回開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育推進委員会を毎週木曜日に設定し、不登校、不適応生徒の情報を共有し、支援を必要とする生徒を全校で組織的に支援する。 ・特別支援教育推進委員会には民生児童委員にも加わっていただき養育困難家庭の支援も行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育推進委員会 年33回実施 SC, SSW、登校サポーターとの連携を図った。 ・スマイルルーム（別室登校）を火、木（2人登校サポーター）に開設し、教室復帰を促せた。 1年2人 3年1人 	<p>来年度SSR開設に向け、教員の意識改革とルール作りを提案し、準備を進める。</p>	<p>◎</p>

<p>重点的な取組事項－4</p>		<p>生活指導の充実</p>			
<p>A 今年度の成果目標</p>	<p>達成基準</p>	<p>実施結果</p>	<p>コメント・課題</p>	<p>達成度</p>	
<p>生徒の内面からの変容を促し、自ら学校生活を豊かにしようとする姿勢を育む</p>	<p>WebQU、ふれあい月間のアンケートにおけるいじめ発生件数</p>	<p>いじめ認知件数2件</p>	<p>いじめ防止対策委員会特別支援教育推進委員会で情報共有、検討により早期解決を図った</p>	<p>○</p>	
<p>B 目標実現に向けた取組み</p>					
<p>項目</p>	<p>達成基準</p>	<p>具体的な方策</p>	<p>実施結果</p>	<p>コメント・課題</p>	<p>達成度</p>

いじめの早期発見・対応	<ul style="list-style-type: none"> WebQU における侵害行為認知群、各学年とも 15%以下 学級不満足群 20%以下 	<ul style="list-style-type: none"> WebQU を活用して、いじめの早期発見に努め、発生したいじめについては「いじめ防止基本方針」に基づく校内「いじめ防止対策委員会」を中心に組織的にその解決にあたる。 生徒会活動や学級活動を通して、生徒自らの手でいじめを抑止しようとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> WebQU における侵害行為認知群 <ul style="list-style-type: none"> 1年 12.5% 2年 23% 3年 16.1% 学級不満足群 <ul style="list-style-type: none"> 1年 14.4% 2年 24.1% 3年 9.8% 	いじめの発生件数が突出して多いというわけではないが、1・2年生に学級での居づらさを感じている生徒が増えている。道徳や学級活動を通して、よりよい人間関係の構築を図る。	○
体罰の根絶	体罰発生件数 0	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して教職員への服務に関する研修を繰り返し、特に、生徒に対して適切な言葉と態度で接するようにさせ、生徒の内面に届く指導を行う。その際、SWPBS を積極的に取り入れ、活用する。 SWPBS の研修を行い、教職員が生徒を適切な言葉で褒められるようにする。 WebQU の研修を実施し、WebQU を正しく分析し、効果的に指導に活かす力を全教員に身に付けさせる。 	体罰発生件数 0	体罰事案は、発生していない。年 3 回の服務事故防止研修にグループワークを取り入れながら自分事としてほぼ全員の教員が真剣に研修に取り組んでいる。引き続き生徒の人権に配慮した適切な指導に当たるよう指導していく。	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

【課題】(年度末の到達度調査から)

- 1年生では、国語の正答率が 64.4%、数学の正答率が 50.1%、英語の正答率は 48%であった。
- 2年生では、国語の正答率が 60.9%、数学の正答率が 25.3%、英語の正答率が 48.1%であった。
- 4月実施調査と比較して、次年度3年生の国語で 7.1ポイント、数学で 12ポイント、次年度英語で 3.1ポイント減少、次年度2年生の国語で 0.3ポイント減、数学で 6.6ポイント増、英語で 5.9ポイント増が見られた。全体として基礎学力の定着が十分ではないが、特に次年度3年数学は年度内に未定着部分の演習により底上げを図る。

【解決の方向性】

- ・各学年、教科において、区の学力調査や全国の調査の分析を徹底し、授業内で単元テスト、小テストを行い、学力が定着していない生徒には放課後補習（JUT）による学び直しを徹底する。朝学習ではAIDRILを活用しながら、復習を中心に学力向上を目指す。
- ・学校全体で「足立スタンダード虎の巻」を基盤にめあて、まとめ・振り返りの徹底など授業改善に取り組んでいく。大仙市派遣教員研究授業を全教員に還元し、統一した指導法を徹底していく。ICTモデル校としてICTの効果的な活用方法を取り入れながら、考え、話し合い、学び合う時間をとり、生徒の主体的な学びを実践していく。
- ・令和6年度文部科学省より「キャリア教育賞」を受賞した。今後も『キャリア教育』の視点に立った学習指導を徹底する。また、各学年の全教育活動の年間指導計画の可視化を図り、生徒に何を学ぶのかを明確に意識させる。

【総括】

本校の多くの生徒は、「授業がわかる」「授業が楽しい」と感じている。一方で「授業中の挙手や発言」「授業後の振り返り」「家庭学習時間」「計画的な学習」等の主体的な学びの項目については数値が低い。到達度調査を見ても学習の定着が十分であるとは言い難い。このことは、繰り返しの学習を継続し確実に基礎基本の定着を図ることと、全教員が授業力を上げ、ICTを効果的に活用しながら生徒の主体的な学びを目指していくことの両輪でなければならない。来年も研究推進委員会を中心にICTモデル校の機会を活用しながら研究授業を公開し、組織的に授業力を上げていく。日常的にも共通の視点で授業を互いに観察する機会を設け、授業改善に努めていく。

（2）保護者や地域へのメッセージ

令和6年度は、運動会、学芸発表会、校内作品展、修学旅行、魚沼自然教室、校外学習など学校・学年行事が滞りなく実施できたことはとても良かったと思います。また、PTA主催清掃ボランティア活動には開かれた学校づくり協議会の協力の下、焼きそばを提供いただき生徒会を中心に多くの生徒が参加できたことも大きな成果でした。来年度以降も地域との連携を視野に活動が定着していくことを目指していきます。生徒アンケートでは、「今の学級をよりよい学級にしたいと思う」「学級のみんなはお互いに協力し助け合っていた」の回答が9割を超えています。一方で、「自ら行動しよう」「授業中挙手や発言を積極的にした」の回答は5割弱と低い数値になっています。令和7年度は、ICTを効果的に活用し、教科指導における話し合い、学び合いの場面を増やししながら、学力向上を目指していきます。また生徒会・委員会活動や係活動、ボランティア活動などSWPBSの視点より、主体的に生徒の発案を取り入れる場面を増やしていくことで自己肯定感を高め、社会に参画する力の育成を目指して参ります。保護者の皆様には、保護者会や三者面談、学校公開、各種たより、H&S、ホームページなどを利用して、学校の様子をお伝えしてきました。今後とも保護者や地域の皆様に信頼される学校づくりを目指して、教職員一同研鑽を積んで参りたいと思います。

（3）その他（学校教育活動全般について）

毎朝、生徒会や週番生徒とともに校門前に立って、挨拶運動を奨励してきました。笑顔で元気よく挨拶できることはとても大切なことです。今後もこの活動は継続していきたいと思えます。また、毎月の校長講話では社会情勢を鑑みて、広い視野で物事を考える力がつくような話題を取り上げてきました。生徒たちの「聴く姿勢」はとてもよく、日々の生活や学校行事に取り組む姿勢に表れています。また、3年生があらゆる行事において素晴らしい勇姿を見せてくれました。このことは下級生に良い影響を与え、生徒の経験値を高めることにつながりました。また、開かれた学校づくり協議会による3年生の面接練習、外部講師による防災教育「大切な人を守ろうプロジェクト」や「租税教室」「生命の安全教育」などの実施により、社会的に自立する力の向上につながりました。令和7年度も「キャリア教育」の視点に立って、全ての教育活動の充実を図るために全教員で授業改善と居心地が良く安心できる学級づくりを目指して参ります。なお、令和7年度はSSR（スクール・サポート・ルーム）の開設、部活動の増設（男子テニス部、体力づくり部）をします。今後も今日的課題に柔軟かつ発想豊かに運営していく学校を目指していきます。保護者や地域の方には温かく見守っていただけると幸いです。